

(様式第 10)

旭医大第 1 3 5 1 号
平成 2 7 年 1 0 月 1 日

北海道厚生局長 殿

開設者名 国立大学法人旭川医科大学
学長 吉田 晃敏

旭川医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 2 6 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
氏 名	吉田 晃敏

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

旭川医科大学病院

3 所在の場所

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号	電話(0166) 65-2111
----------------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 腎臓内科 3 呼吸器内科 4 脳神経内科 5 糖尿病内科 6 内分泌内科 7 消化器内科 8 血液・腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓外科 2 血管外科 3 呼吸器外科 4 乳腺外科 5 小児外科 6 消化器外科 7 頭頸部外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
31床	床	床	床	571床	602床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年 9月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	264人	117人	357.6人	看護補助者	55人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	4人	9.2人	理学療法士	10人	臨床検査技師	48人
薬 剤 師	41人	0人	41人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	10人	その他	0人
助 産 師	28人	1人	28.3人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	633人	49人	663.8人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯科技工士	2人	事務職員	103人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	35人	その他の職員	52人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年 6月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	14人	眼科専門医	18人
外科専門医	27人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	21人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	9人	整形外科専門医	16人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	30人
産婦人科専門医	11人	救急科専門医	7人
		合 計	195人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	468.0人	5.0人	473.0人
1日当たり平均外来患者数	1,488.0人	48.9人	1,536.9人
1日当たり平均調剤数	708.98 剤		
必要医師数	132人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	16人		
必要(准)看護師数	290人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	579 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	19 床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 47 m ² [移動式の場合] 台数 6 台		病床数	4 床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 182 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	388 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 総合血液学検査装置 ADVIA2120			
細菌検査室	80 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査システム MIC2000			
病理検査室	408 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 生物顕微鏡 バーチャルスライド装置			
病理解剖室	93 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 床埋込式デジタル遺体計量器 SH-FD			
研 究 室	846 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 全自動免疫染色装置			
講 義 室	624 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	室数	3 室	収容定員	553 人
図 書 室	3,514m ²	鉄筋コンクリート	室数	11 室	蔵書数	16万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	73.6%	紹介率	62.6%
算出根拠 A: 紹介患者の数			11,068 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,234 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			960 人
D: 初診の患者の数			16,353 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	0人
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	0人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	191人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下直腸切除・切断術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
<p>直腸癌に対する腹腔鏡手術の適応を有する症例を対象とし、手術支援ロボットda Vinci S Surgical Systemを用いた直腸癌に対する直腸切除・切断術である。</p> <p>手術支援ロボットは、ストレスの少ないより複雑で細やかな手術手技を可能としており、また三次元による正確な画像情報を取得できるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能である。</p> <p>当該技術は、6大学病院において実施されている。</p>			
医療技術名	ロボット支援下肝臓切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
<p>肝腫瘍に対する腹腔鏡下肝臓切除術が可能な症例に対して、手術支援ロボットda Vinci S Surgical Systemを用いた肝切除術である。</p> <p>肝胆膵外科領域の外科手術において、ロボット支援手術のもたらす恩恵は大きい。高度解像度三次元画像、拡大視効果、高自由度多関節機能を有する鉗子、手振れ防止機能は、従来の鏡視下手術の欠点を補い、繊細な手術手技を必要とする肝臓切除手術に有効である。</p> <p>当該技術は、2大学病院において実施されている。</p>			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	70人	・膿疱性乾癬	14人
・多発性硬化症	30人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	35人	・原発性胆汁性肝硬変	51人
・全身性エリテマトーデス	217人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	64人
・再生不良性貧血	18人	・混合性結合組織病	19人
・サルコイドーシス	104人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	1人	・特発性間質性肺炎	7人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	171人	・網膜色素変性症	37人
・特発性血小板減少性紫斑病	30人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	45人	・肺動脈性肺高血圧症	8人
・潰瘍性大腸炎	211人	・神経線維腫症	11人
・大動脈炎症候群	21人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	32人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	12人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	31人	・ライゾゾーム病	2人
・クローン病	160人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	14人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	89人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	11人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3人
・後縦靭帯骨化症	46人	・肥大型心筋症	95人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	9人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	18人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	39人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	13人	・黄色靭帯骨化症	2人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	5人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	69人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯A000 2 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・A232 がん診療連携拠点病院加算
・歯A000 注9 歯科外来診療環境体制加算	・A234 医療安全対策加算1
・歯A000 注10 歯科診療特別対応連携加算	・A234-2 感染防止対策加算1
・A104 特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神15:1)	・A234-2 注2 感染防止対策地域連携加算
・A204-2 臨床研修病院入院診療加算(基幹型病院)	・A234-3 患者サポート体制充実加算
・歯A204-2 臨床研修病院入院診療加算 (歯科、単独型又は管理型病院)	・A236 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・A205 救急医療管理加算	・A236-2 ハイリスク妊娠管理加算
・A205-2 超急性期脳卒中加算	・A237 ハイリスク分娩管理加算
・A205-3 妊産婦緊急搬送入院加算	・A238 退院調整加算
・A207 診療録管理体制加算2	・A238-3 注1 新生児特定集中治療室退院調整加算3
・A207-3 急性期看護補助体制加算 25対1 (補助者5割以上)	・A238-4 救急搬送患者地域連携紹介加算
・A207-4 看護職員夜間配置加算	・A243 後発医薬品使用体制加算2
・A208 注1 乳幼児加算	・A245 データ提出加算2
・A208 注2 幼児加算	・A300 救命救急入院料1
・A212 注1 超重症児(者)入院診療加算	・A300 注3 充実度A評価加算
・A212 注2 準超重症児(者)入院診療加算	・A301 特定集中治療室管理料1
・A214 看護補助加算1 30対1	・A301 注2 小児加算
・A219 療養環境加算	・A302 新生児特定集中治療室管理料1
・A221 重症者等療養環境特別加算	・A303-2 新生児治療回復室入院医療管理料
・A221-2 小児療養環境特別加算	・A307 小児入院医療管理料2
・A224 無菌治療室管理加算1	・A307 注2 プレイルーム加算
・A226-2 緩和ケア診療加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・B001 3 注1 悪性腫瘍特異物質治療管理料 尿中BTA検査	・I013 注2 抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・B001 3 注2 悪性腫瘍特異物質治療管理料 腫瘍マーカー検査	・I014 医療保護入院等診療料
・B001 4 注 小児特定疾患カウンセリング料	・J通則5 処置の休日加算1
・B001 5 注1 小児科療養指導料	・J通則5 処置の時間外加算1
・B001 9 注 外来栄養食事指導料	・J通則5 処置の深夜加算1
・B001 10 注1 入院栄養食事指導料1	・J038 注9 透析液水質確保加算2
・B001 11 注 集団栄養食事指導料	・J045-2 一酸化窒素吸入療法
・B001 12 注4 植込型除細動器移行期加算	・J070-4 磁気による膀胱等刺激法
・B001 14 注1 高度難聴指導管理料	・K通則4 医科点数表第2章第10部手術の通則4に掲げる手術
・B001 16 注1 喘息治療管理料(注1のみ)	・K通則5、6 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
・B001 18 注1 小児悪性腫瘍患者指導管理料	・K通則12 手術の休日加算1
・B001 20 注1 糖尿病合併症管理料	・K通則12 手術の時間外加算1
・B001 22 がん性疼痛緩和指導管理料	・K通則12 手術の深夜加算1
・B001 23 注1 がん患者指導管理料1	・K007、歯J104-2 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・B001 23 注2 がん患者指導管理料2	・K059 4 骨移植術(軟骨移植術を含む。) (自家培養軟骨移植術に限る。)
・B001 23 注3 がん患者指導管理料3	・K181、K181-2 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・B001 24 注1 外来緩和ケア管理料	・K190、K190-2 脊髄刺激装置植込術 及び脊髄刺激装置交換術
・B001 27 注1 糖尿病透析予防指導管理料	・K254 1 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
・B001-2-3 注 乳幼児育児栄養指導料	・K260-2 羊膜移植術
・B001-2-5 注 院内トリアージ実施料	・K268 5 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・B001-2-7 注1 外来リハビリテーション診療料	・K280-2 網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)
・B001-2-8 注1 外来放射線照射診療料	・K281-2 網膜再建術
・B005-2 注1 地域連携診療計画管理料 (大腿骨頸部骨折、脳卒中)	・K328 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術 及び植込型骨導補聴器交換術
・B005-6 注1 がん治療連携計画策定料	・K340-7 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型 (拡大副鼻腔手術)

・B005-6-3 注1 がん治療連携管理料	・K476 注2 乳がんセンチネルリンパ節加算2
・B005-8 注1 肝炎インターフェロン治療計画料	・K546 経皮的冠動脈形成術
・B008 注1 薬剤管理指導料	・K549 経皮的冠動脈ステント留置術
・B011-4 注1 医療機器安全管理料1	・K597、K597-2 ペースメーカー移植術 及びペースメーカー交換術
・B011-4 注2 医療機器安全管理料2	・K597-3、K597-4 植込型心電図記録計移植術 及び植込型心電図記録計摘出術
・歯B018 医療機器安全管理料(歯科)	・K598、K598-2 両心室ペースメーカー移植術 及び両心室ペースメーカー交換術
・歯B004-6 注1 歯科治療総合医療管理料	・K599、K599-2 植込型除細動器移植術 及び植込型除細動器交換術
・C005 注2 在宅患者訪問看護指導料	・K599-3、K599-4 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・C005-1-2 注2 同一建物居住者訪問看護・指導料	・K599-5 経静脈電極抜去術 (レーザーシースを用いるもの)
・C152-2 注1 持続血糖測定器加算	・K600 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・D006-2 造血器腫瘍遺伝子検査	・K603 補助人工心臓
・D023 7 注 HPV核酸検出及び HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・K615-2 経皮的大動脈遮断術
・D026 検体検査管理加算(IV)	・K636-2 ダメージコントロール手術
・D026 遺伝カウンセリング加算	・K664 胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、 腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・D206 心臓カテーテル法による諸検査の 血管内視鏡検査加算	・K695-2 腹腔鏡下肝切除術
・D210-3 植込型心電図検査	・K697-5 生体部分肝移植術
・D211-3 時間内歩行試験	・K702-2 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・D215 胎児心エコー法	・K721-4 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・D225-4 ヘッドアップティルト試験	・K768 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・D231-2 皮下連続式グルコース測定	・K800-3 膀胱水圧拡張術
・D235-2 長期継続頭蓋内脳波検査	・K803-2 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・D239-3 神経学的検査	・K803-3 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・D244-2 補聴器適合検査	・K823-5 人工尿道括約筋植込・置換術
・D270-2 ロービジョン検査判断料	・K843-3 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・D282-3 1 コンタクトレンズ検査料1	・K879-2 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)
・D291-2 小児食物アレルギー負荷検査	・K920-2、歯J200-2 輸血管管理料 I
・D291-3 内服・点滴誘発試験	・K939-3 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・D409-2 センチネルリンパ節生検(単独)	・K939-4 内視鏡手術用支援機器加算

・D415 注2 CT透視下気管支鏡検査加算	・K939-5 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・E通則4 画像診断管理加算1	・歯J063 5 歯周組織再生誘導手術
・E通則6、7 遠隔画像診断(受信側)	・歯科J063 注5 手術時歯根面レーザー応用加算
・E101-2 ポジトロン断層撮影	・歯J109 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・E101-3 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・L009 麻酔管理料(Ⅰ)
・E200 CT撮影	・L010 麻酔管理料(Ⅱ)
・E200 注4 冠動脈CT撮影加算	・M000 注2、歯L000 注2 放射線治療専任加算
・E200 注7 大腸CT撮影加算	・M000 注3 外来放射線治療加算
・E202 MRI撮影	・M001 2、歯L001 2 高エネルギー放射線治療
・E202 注4 心臓MRI撮影加算	・M001 注2 1回線量増加加算
・F100 注7、F400 注5 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・M001 3、歯L001 3 強度変調放射線治療(IMRT)
・G通則6、歯G通則6 外来化学療法加算1	・M001 注4、歯L001 注6 画像誘導放射線治療(IGRT)
・G020 無菌製剤処理料	・M001 注5 体外照射呼吸性移動対策加算
・H000 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・M001-3 直線加速器による放射線治療 (定位放射線治療)
・H000 注3 初期加算	・M001-3 注2 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 (動体追尾法、その他のもの)
・H001 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・歯M001 注5、歯M001-2 注1 う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・H001 注3 初期加算	・歯M002-2 クラウン・ブリッジ維持管理料
・H002 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・歯M029 注3 歯科技工加算
・H002 注3 初期加算	・N通則6 保険医療機関間の連携による病理診断
・H003 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・N通則7 テレパソロジーによる術中迅速病理組織 標本作製(受信側)
・H003 注3 初期加算	・N通則7 テレパソロジーによる術中迅速細胞診 (受信側)
・H007-2、歯H003 がん患者リハビリテーション料	・N006 注4 病理診断管理加算2
・歯H001-3 歯科口腔リハビリテーション料2	・歯N000 歯科矯正診断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・腹腔鏡下子宮体がん根治術	・
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	7回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 22 例 / 剖検率 7.21%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
臨床標本遺伝子解析結果に基づいた静脈グラフト内膜肥厚予測のバイオマーカー開発	東 信良	第一外科	3,250,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
LPS, 炎症性サイトカインと末梢CRF受容体サブタイプの消化管機能における相関	野津 司	地域医療教育学講座	2,210,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
脳内オレキシンシグナル低下はIBSの病態を引き起こす	奥村 利勝	総合診療部	1,560,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
腸炎モデルおよびヒト初代培養細胞を用いた菌由来活性物質の腸管保護メカニズムの解析	藤谷 幹浩	第三内科	3,640,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ハイブリッド・コンディショニングによる心筋救済法の開発とHSPを介する機序の解明	竹内 利治	第一内科	2,730,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
急性腎障害に対する糖代謝の制御を介した尿細管部位特異的な治療を目指して	藤野 貴行	第一内科	2,470,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ヘプシジン関連創薬のためのEPICシステムを応用した活性型ヘプシジン測定系の開発	佐々木 勝則	消化管再生修復医学講座	1,950,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
膠原病に伴う肺高血圧症におけるIPAS/HIF-3 α シグナルの役割の解明	牧野 雄一	第二内科	1,950,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
糖尿病, 慢性透析が移植前静脈グラフトに与える影響の解析	内田 恒	第一内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
麻酔プレコンディショニングがミトコンドリアオンチャネルに与える影響	丹保 亜希仁	救急科	780,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
逆行性遺伝学手法を用いた無精子症原因遺伝子群の解析	千石 一雄	産婦人科	2,860,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるCD70に対する分子標的治療の検討	岸部 幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,950,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
声帯麻痺後の再運動化による喉頭機能の再生	片田 彰博	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
扁桃摘出術における口蓋扁桃摘出術の基礎・臨床的エビデンスの構築	高原 幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
糖尿病網膜症における内因性分泌型AGEs受容体が及ぼす網膜循環への影響の解析	佐藤 栄一	眼科	780,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ロービジョン患者の視覚機能に及ぼす光の影響	石子 智士	医工連携総研講座	1,430,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
疑似触覚シミュレーションと多機能画像融合顕微鏡支援ナビゲーションの開発	鎌田 恭輔	脳神経外科	2,080,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
鉄過剰が誘導する糖・脂質代謝異常一肝組織における新規発癌予防・治療標的分子の探索	田中 宏樹	消化管再生修復医学講座	1,950,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
新規芽生乳酸菌由来活性物質による腸内細菌叢変化と過敏性腸症候群への臨床応用	上野 伸展	第三内科	1,950,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
毛細血管幹細胞におけるAPE1の役割解明—高性能化幹細胞調整法の開発にむけて—	山内 敦司	第一内科	1,170,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
肺癌における分子標的薬耐性機序の解明と治療戦略の開発	佐々木 高明	呼吸器センター	2,600,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
吸入麻酔薬と交感神経刺激が心筋細胞IKsチャンネルに及ぼす相互作用の検討	三國 生臣	救急科	2,470,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
機能的電気刺激を用いた麻痺声帯再運動化の研究	野村 研一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
新たな網膜循環調節因子と網膜症治療法の確立	大前 恒明	眼科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
シェアストレスからみた網膜静脈分枝閉塞症の病態と治療	十川 健司	眼科	1,430,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)

神経-血管連関応答下における網膜血流と神経活動の相互調節作用の解明	宋 勇錫	眼科	2,470,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ラジオアイソトープ治療患者に対するアロマセラピーを用いた予防医療の試み	中山 理寛	放射線科	2,990,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
脳皮質電位(ECoG)を用いたリアルタイムでの脳機能の可視化と臨床応用	小川 博司	脳神経外科	3,380,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
NAFLDにおけるプロバイオティクスの脂肪酸代謝作用ポイントの同定と治療応用	澤田 康司	第三内科	1,690,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
脊柱側弯症患者発見用インテリジェントデバイスの開発	今井 充	整形外科	500,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
鼻性NK/T細胞リンパ腫における溶解感染誘導の検討	上田 征吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
糖尿病性腎症におけるグルコース応答性遺伝子発現制御機構の解明と新規治療法の開発	羽田 勝計	第二内科	3,640,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
皮質電位と脳機能画像標準化によるヒト機能テンプレート作成と信号解読	鎌田 恭輔	脳神経外科	910,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
鼻性NK/T細胞リンパ腫に対するEBウイルス・腫瘍増殖分子標的治療の基盤的研究	原渕 保明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	4,030,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
網膜循環における神経-血管連関の調節機構の解明と糖尿病網膜症早期診断への臨床応用	長岡 泰司	眼科	3,120,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
Brain Machine Interfaceを用いた急性期脳卒中リハビリの効果	大田 哲生	リハビリテーション科	1,820,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
慢性骨盤痛症候群における肥満細胞の意義および病態解明	松本 成史	泌尿器科	910,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
酸化的DNA塩基損傷修復と熱ショック蛋白修飾による心血管リモデリング抑制の研究	長谷部 直幸	第一内科	1,430,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
肺癌の新たな個別化治療の確立を目指したNamt1遺伝子の変異解析とその機能解析	大崎 能伸	呼吸器センター	130,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
非トランスフェリン結合鉄による赤血球造血抑制と鉄キレート剤での造血回復効果の検討	生田 克哉	第三内科	1,040,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
胎盤11ベータヒドロキシステロイド脱水素酵素が胎児発育に及ぼす影響に関する研究	長屋 建	周産母子センター	2,080,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
皮膚バリア障害における角層デスモゾームの異常の解析と治療への応用	山本 明美	皮膚科	1,040,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
癌の蛍光診断を応用した新たな体内リンパ節と体内深部の転移病巣診断法の開発	北田 正博	乳腺疾患センター	130,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
股関節各軟部組織の安定性に対する貢献度の評価	伊藤 浩	整形外科	390,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ドラッグリプロファイリングによる新規メカニズムを持つ抗パーキンソン病薬の開発	田崎 嘉一	薬剤部	1,300,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
分泌型miRNAによる褥瘡・糖尿病性皮膚潰瘍の評価方法の確立と新規治療法への応用	藤井 聡	臨床検査医学講座	1,690,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ヒト培養バレット上皮のエピゲノム解析と幹細胞性の実証を基盤とした新規予防治療法	盛一 健太郎	第三内科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ERストレスを介した鉄代謝調節とUPR破綻による鉄過剰のメカニズム	大竹 孝明	第三内科	1,950,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
再生医療開発にむけた間葉系幹細胞様の毛細血管周細胞の機能解明	川辺 淳一	心血管再生・先端医療開発講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
リボソーム投与により誘導されるMDS様細胞の機能発現に関わる分子基盤の解明	東 寛	小児科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
心停止下ドナーによる肝移植のための新規保存液を用いたグラフト灌流保存法の開発	谷口 雅彦	第二外科	780,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
炎症性血管病変の形成に対する内因性プロスタノイドの役割解明	高畑 治	麻酔科蘇生科	1,430,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)

ヒト無精子症と早発閉経の病態解明および臨床医学への応用	宮本 敏伸	産科婦人科	1,690,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
静脈内皮細胞機能のエピゲノム調節における長寿遺伝子の役割	東 信良	第一外科	910,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
新規治療用遺伝子CSDAによる血管内膜肥厚抑制療法の開発	齊藤 幸裕	第一外科	1,820,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ガス分子による新しい網膜循環調節機構の解明	長岡 泰司	眼科	1,820,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
北海道における冬季の患者受療行動モデルの構築と評価	谷川 琢海	経営企画部	650,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
胎盤甲状腺ホルモントランスポートの発現と早産児甲状腺機能の関連についての検討	野原 史勝	周産母子センター	1,560,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
妊娠と神経障害性疼痛	小野寺 美子	麻酔科蘇生科	260,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
慢性腸炎による線維化を改善する新規腸内細菌由来活性物質の同定とその治療効果の解析	嘉島 伸	第三内科	1,820,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
超短縮エコー時間磁気共鳴画像の肺評価法の確立と臨床応用	佐々木 智章	放射線科	780,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
CREデコイODNによる血管内膜肥厚抑制効果の検討	内田 大貴	救急科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
ROR1を標的とした肺癌の免疫治療に向けた基盤研究	林 諭史	呼吸器センター	1,170,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
心筋代謝異常が虚血再灌流障害に対する吸入麻酔薬の心筋保護作用に及ぼす影響	菊地 千歌	麻酔科蘇生科	650,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
$\alpha 7$ アセチルコリン受容体刺激が筋分化・肥大に及ぼす影響	笹川 智貴	麻酔科蘇生科	1,040,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
鼻性NK/T細胞リンパ腫の病態におけるEBウイルスmicroRNAの機能解析	駒林 優樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
シェアストレスの血液網膜関門へ及ぼす作用の解明	石羽澤 明弘	眼科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
糖転移ヘスペリジンによる糖尿病網膜症新規治療薬の開発	横田 陽匡	眼科	2,210,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
新生児ヘルペスにおける抗炎症的治療介入に関する基盤研究	長森 恒久	小児科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会(科研費)
脳死ドナーにおける多臓器摘出に関する教育プログラムの確立	古川 博之	第二外科	5,000,000	(補委)	厚生労働省(厚労科研補助金)
原発性リンパ浮腫ガイドライン改訂のための患者評価票の開発と複合的理学療法評価に関する研究	齊藤 幸裕	第一外科	28,600,000	(補委)	厚生労働省(厚労科研委託費)
「オール北海道先進医学・医療拠点形成」(治験段階に移行する基礎研究の創出)	吉田 晃敏	学長	195,663,200	(補委)	研究開発施設共用等促進費補助金
糖尿病研究課題3 (J-DOIT3)	羽田 勝計	第二内科	1,300,000	(補委)	公益財団法人日本糖尿病財団
冠動脈疾患患者に対するヒタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験REAL-CAD(CSP-LD9)	長谷部 直幸	第一内科	200,000	(補委)	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
自然免疫の制御法開発に向けた基盤的研究	長森 恒久	小児科	300,000	(補委)	公益財団法人伊藤医薬学術交流財団
腫瘍リンパ管内皮細胞培養系の樹立と生物学的特徴の解明	齋藤 幸裕	第一外科	1,000,000	(補委)	公益財団法人秋山記念生命科学振興財団
毛細血管由来幹細胞(Capillary stem cells)の網膜再生治療への応用	横田 陽匡	眼科	700,000	(補委)	公益財団法人秋山記念生命科学振興財団
FDG-PET/MRIを用いた先天性心疾患患者の右心機能評価法の開発	杉本 昌也	小児科	2,000,000	(補委)	公益財団法人武田科学振興財団
体質性低身長児におけるACAN遺伝子異常に関する研究	棚橋 祐典	小児科	500,000	(補委)	公益財団法人成長科学協会
JFMC37-0801臨床研究 研究助成金	古川 博之	第二外科	10,000	(補委)	公益財団法人がん集学的治療研究財団

冠動脈疾患患者に対するヒダバスタテンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験REAL-CAD(CSP-LD9)	長谷部 直幸	第一内科	120,000	補委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
SGLT2阻害薬による脾臓・腎糸球体保護作用:細小血管構築からの検討	滝山 由美	第二内科	3,000,000	補委	公益財団法人日本糖尿病財団
乳がんに対するエベロリムスのPK/PDと適正使用法	福土 将秀	薬剤部	2,000,000	補委	公益財団法人臨床薬理研究振興財団
ヒト無精子症の病態解明および臨床医学への応用	宮本 敏伸	産婦人科	1,200,000	補委	公益財団法人寿原記念財団
がん研究費	千石 一雄	産婦人科	440,000	補委	公益財団法人北海道対がん協会
がん研究費	東 信良	第一外科	180,000	補委	公益財団法人北海道対がん協会
小児における肺高血圧治療薬の薬物動態・薬力学解析	杉本 昌也	小児科	2,000,000	補委	公益財団法人臨床薬理研究振興財団
癌分子標的薬の代謝プロファイルと有害事象の関連解明	福土 将秀	薬剤部	2,000,000	補委	公益財団法人上原記念生命科学財団
JFMC38-0901臨床研究 研究助成金	古川 博之	第二外科	5,000	補委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
マルチキナーゼ阻害薬とその代謝物の薬物動態評価系の構築と最適処方支援	福土 将秀	薬剤部	500,000	補委	公益財団法人がん研究振興財団
不妊・不育症患者の実態と生殖補助医療技術による妊孕性の向上に関する研究	千石 一雄	産科婦人科	802,740	補委	北海道
非代償性心不全で入院し、体液貯留に対してトルバプタン治療を受けた患者に関する多施設共同前向きコホート研究(MT FUJI study)	長谷部 直幸	第一内科	126,000	補委	公益財団法人先端医療振興財団
エイズ診療向上に関する調査研究	大崎 能伸	感染制御部	4,096,000	補委	北海道
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験(POTENT)	北田 正博	乳腺疾患センター	1,640,000	補委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験(POTENT)	北田 正博	乳腺疾患センター	2,060,000	補委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
65歳以上の高齢者2型糖尿病における、シタグリブチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験(START-1)	羽田 勝計	第二内科	54,000	補委	公益社団法人日本糖尿病協会
計			369,096,940	円	

計 96 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	鹿原真樹	第一内科、循環器外科	Immortalized multipotent pericytes derived from the vasa vasorum in the injured vasculature. A cellular tool for studies of vascular remodeling and	Lab Invest. 2014 Dec;94(12):1340-54.
2	中川直樹	第一内科	Impact of metabolic disturbances and malnutrition-inflammation on 6-year mortality in Japanese patients undergoing hemodialysis	Ther Apher Dial. 2015 Feb;19(1):30-9.
3	佐藤伸之	第一内科	[Fixed-drug combinations for hypertension]	Nihon Rinsho. 2014
4	齋藤 司	第一内科	Combination therapy for segmental craniocervical dystonia (Meige syndrome) with aripiprazole, trihexyphenidyl, and botulinum toxin: three cases reports.	Neurol Sci. 2015 Feb;36(2):243-5.
5	澤田 潤	第一内科	A case of pathology-proven neuromyelitis optica spectrum disorder with Sjögren syndrome manifesting aphasia and apraxia due to a localized cerebral white matter lesion.	Mult Scler. 2014 Sep;20(10):1413-6.
6	齋藤 司	第一内科	Cerebral microbleeds and asymptomatic cerebral infarctions in patients with atrial fibrillation.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Jul;23(6):1616-22.
7	丸山啓介	第一内科	Successful percutaneous transluminal angioplasty for the treatment of renovascular hypertension with an atrophic kidney.	Heart Vessels. 2015 Mar;30(2):274-9.
8	坂本 央	第一内科	Three cases of corticosteroid therapy triggering ventricular fibrillation in J-wave syndromes.	Heart Vessels. 2014 Nov;29(6):867-72.
9	佐藤伸之	第一内科、輸血部	The relationship between repolarization parameters and serum electrolyte levels in patients with J wave syndromes.	Magnes Res. 2015 Jan-Mar;28(1):1-13.
10	松木孝樹	第一内科	Ninjurin1 is a novel factor to regulate angiogenesis through the function of pericytes.	Circ J. 2015;79(6):1363-71.
11	上野伸展	第三内科	TU-100 (Daikenchuto) and Ginger Ameliorate Anti-CD3 Antibody Induced T Cell-Mediated Murine Enteritis: Microbe-Independent Effects Involving Akt and NF- κ B Suppression.	PLoS One. 2014 May 23;9(5):e97456.
12	澤田康司	第三内科	Effectiveness of pazopanib for postoperative recurrence of granulocyte colony-stimulating factor-producing primary hepatic angiosarcoma.	International Cancer Conference Journal. 2015;4(1):41-47
13	澤田康司	第三内科	Augmented hepatic Toll-like receptors by fatty acids trigger the pro-inflammatory state of nonalcoholic fatty liver disease in mice.	Hepatol Res. 2014 Aug;44(8):920-34.
14	藤谷幹浩	第三内科	ALK inhibition for the treatment of refractory epithelioid inflammatory myofibroblastic sarcoma.	Intern Med. 2014;53(19):2177-8.

15	藤谷幹浩	第三内科	microRNA-18a induces apoptosis in colon cancer cells via the autophagolysosomal degradation of oncogenic heterogeneous nuclear ribonucleoprotein A1.	Oncogene. 2014 Oct 2;33(40):4847-56.
16	伊藤 巧	第三内科	Non-transferrin-bound iron assay system utilizing a conventional automated analyzer.	Clin Chim Acta. 2014 Nov 1;437:129-35.
17	安藤勝祥	第三内科	Duodenal metastasis from head and neck cancer with an intestinal obstruction.	Journal of Cytology & Histology 2014, S4
18	藤谷幹浩	第三内科	Decreased numbers of vascular networks and irregular vessels on narrow-band imaging are useful findings for distinguishing intestinal lymphoma from lymphoid hyperplasia.	Gastrointest Endosc. 2014 Dec;80(6):1064-71.
19	アド・リンダ	第三内科	Hepatic nerve growth factor induced by iron overload triggers defenestration in liver sinusoidal endothelial cells.	Biochim Biophys Acta. 2015 Jan;1852(1):175-83.
20	堂腰達矢	第三内科	A randomized study on the effectiveness of prophylactic clipping during endoscopic resection of colon polyps for the prevention of delayed bleeding.	Biomed Research International (Journal of Biomedicine and Biotechnology) 2015;2015:490272.
21	藤谷幹浩	第三内科	Efficacy and adverse events of endoscopic mucosal resection (EMR) and submucosal dissection (ESD) for the treatment of colon neoplasms: A meta-analysis of studies comparing EMR and ESD.	Gastrointest Endosc. 2015 Mar;81(3):583-95.
22	高橋悟	小児科	A novel mutation of the SCN4A gene in a Japanese family with paramyotonia congenita.	J Neurol Neurophysiol 2014;5:233
23	荒木章子	小児科	Improved prefrontal activity in AD/HD children treated with atomoxetine: a NIRS study.	Brain Dev. 2015;37(1):76-87
24	松本直也	小児科	Benign infantile convulsion as a diagnostic clue of paroxysmal kinesigenic dyskinesia: a case series.	J Med Case Rep. 2014;8:174.
25	杉本 昌也	小児科	Ratio between fms-like tyrosine kinase 1 and placental growth factor in children with congenital heart disease.	Pediatric Cardiology.2015 Mar;36(3):591-9.
26	古谷曜子	小児科	HbA1c can be a useful glycemic control marker for patients with neonatal diabetes mellitus older than 20 weeks of age.	Clinica Chimica Acta.2014;436:93-6.
27	岡秀治	小児科	Glycemic control and motor development in a patient with intermediate DEND.	Pediat.Int,56(3):432-5:2014
28	更科岳大	小児科	A randomized trial of cefozopran versus cefepime as empirical antibiotic treatment of febrile neutropenia in pediatric cancer patients	Pediatric Blood & Cancer, 61(11), 1992-5, 2014
29	鈴木 滋	小児科	Age-adjusted glycated albumin: A more robust parameter to establish glycaemic control in neonatal diabetes mellitus	Annals of Clinical Biochemistry. 2014 Sep;51(Pt 5):602-5.
30	長森 恒久	小児科	Construction of a scoring system for predicting the risk of severe gastrointestinal involvement in Henoch-Schönlein Purpura	SpringerPlus. 2014 Apr 2;3:171.

31	鳥海 尚久	小児科	Risk factors for human herpesvirus 6 reactivation and its relationship with syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion after stem cell transplantation in pediatric patients	Journal of Pediatric Hematology/Oncology. 2014 Jul;36(5):379-83.
32	永生 高広	小児科	Successful curative resection of gallbladder cancer following S-1 chemotherapy: A case report and review of the literature	Oncology Letters. 2014 Dec;8(6):2443-2447.
33	東 信良	第一外科	Ulcer Healing After Peripheral Intervention-Can We Predict It Before Revascularization?-	Circulation Journal.2014;78(8):1791-800.
34	菊地 信介	第一外科	Clinical Results of Cystic Excision for Popliteal Artery Cystic Adventitial Disease: Long-term Benefits of Preserving the Intact Intima	Annals of Vascular Surgery. 2014 Aug;28(6):1567.e5-8.
35	東 信良	第一外科	Surgical reconstruction versus peripheral intervention in patients with critical limb ischemia-a prospective multicenter registry in Japan: The SPINACH study design and rationale	Vascular 2014.Dec;22(6):411-20.
36	松野 直徒	第二外科,国立成育医療研究センター,首都大学東京	Impact of Machine Perfusion preservation of Liver Grafts From Donation After Cardiac Death	Transplantation Proceedings. 2014 May;46(4):1099-103.
37	谷口 雅彦	第二外科	Hepatic clearance measured with 99mTc-GSA single-photon emission computed tomography to estimate liver fibrosis	World Journal of Gastroenterology. 2014 Nov 28;20(44):16714-20.
38	古郡 菜里子	第二外科	Clinicopathological features of small nonfunctioning pancreatic neuroendocrine tumors	World Journal of Gastroenterology. 2014 Dec 21;20(47):17949-54.
39	堀 仁子	皮膚科	Periorbital lupus profundus successfully treated with oral tacrolimus plus low-dose prednisolone.	J Dermatol. 2015 Feb;42(2):222-3.
40	小松 成綱	皮膚科	Cutaneous necrotizing vasculitis as a manifestation of familial Mediterranean fever.	J Dermatol. 2014 Sep;41(9):827-9.
41	菅野 恭子	皮膚科	Cutaneous lesions of Kikuchi's disease: evolution of histopathological findings.	J Dermatol. 2014 Aug;41(8):736-8.
42	山本 明美	皮膚科	Genetic skin diseases related to desmosomes and corneodesmosomes.	J Dermatol Sci. 2014 May;74(2):99-105.
43	和田 直樹	腎泌尿器外科	Decreased urinary nerve growth factor reflects prostatic volume reduction and relief of outlet obstruction in patients with benign prostatic enlargement treated with dutasteride.	Int J Urol. 2014 Dec;21(12):1258-62.
44	和田 直樹	腎泌尿器外科	Improvement of Overactive Bladder Symptoms and Bladder Ischemia with Dutasteride in Patients with Benign Prostatic Enlargement.	Lower Urinary Tract Symptoms. 2015;Jan;7(1),37-41.
45	神谷 隆行	眼科	Role of Ca ²⁺ -dependent and Ca ²⁺ -sensitive mechanisms in sphingosine 1-phosphate-induced constriction of isolated porcine retinal arterioles in vitro.	Exp Eye Res. 2014 Apr;121:94-101.

46	川井 基史	眼科	Combined Baerveldt glaucoma drainage implant surgery and surgical bleb revision for preventing a postoperative hypertensive phase.	Clin Ophthalmol. 2014 Apr 16;8:773-6.
47	宋 勇錫	眼科	A Case of Tranexamic acid-Induced Ligneous Conjunctivitis with Renal Failure showed Reversible Hypo-Plasminogenemia.	BMJ Case Reports. doi:10.1136/bcr-2014-204138. (オンライン雑誌のため、巻号などなし)
48	石羽澤 明弘	眼科, 名寄市立総合病院	Recurrent Vogt-Koyanagi-Harada disease with sensorineural hearing loss and choroidal thickening	Int Ophthalmol. 2014 Jun;34(3):679-84.
49	大野 晋治	眼科	Beraprost Sodium, a Stable Prostacyclin Analogue, Elicits Dilation of Isolated Porcine Retinal Arterioles: Roles of eNOS and Potassium Channels.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Jul 31;55(9):5752-9.
50	宋 勇錫	眼科	Temporal posttraumatic limited ocular movement with suspected trapdoor fracture.	Clin Ophthalmol. 2014 Aug 18;8:1535-8.
51	川井 基史	眼科	Autologous transplantation of a free Tenon's graft for repairing excessive bleb leakage after trabeculectomy: a case report.	Case Rep Ophthalmol. 2014 Sep 25;5(3):297-301.
52	長岡 泰司	眼科	Changes in Retinal Blood Flow in Patients with Macular Edema Secondary to Branch Retinal Vein Occlusion before and after Intravitreal Injection of Bevacizumab.	Retina. 2014 Oct;34(10):2037-43.
53	宇都宮 嗣了	眼科	The wound healing process after corneal stromal thinning observed with anterior segment optical coherence tomography.	Cornea. 2014 Oct;33(10):1056-60.
54	川井 尚子	眼科, 名寄市立総合病院眼科	A Study of the Association Between Patterns of Eye Drop Prescription and Medication Usage in Glaucoma Subjects.	J Glaucoma. 2015 Mar;24(3):202-6.
55	横田 陽匡	眼科	Serum prorenin levels are not associated with ocular diseases in non-diabetic subjects.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2015 Mar;16(1):153-8.
56	熊井 琢美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Tumor-derived TGF- β and prostaglandin E2 attenuate anti-tumor immune responses in head and neck squamous cell carcinoma treated with EGFR inhibitor.	J Transl Med. 2014 Sep 21;12:265.
57	熊井 琢美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科, Georgia Regents University Cancer Center	c-Met is a novel tumor associated antigen for T-cell based immunotherapy against NK/T cell lymphoma.	Oncoimmunology. 2015 Mar 6;4(2):e976077.
58	長門 利純	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	A novel combinatorial cancer immunotherapy: Poly-IC and blockade of the PD-1/PD-L1 pathway	Oncoimmunology. 2014 May 15;3:e28440.
59	宮本 敏伸	産科婦人科	Single-nucleotide polymorphisms in the LRWD1 gene may be a genetic risk factor for Japanese patients with Sertoli cell-only syndrome	Andrologia. 2014 Apr;46(3):273-6.
60	佐々木智章	放射線科	Ratios of Peripheral-to-Central Airway Lumen Area and Percentage Wall Area as Predictors of Severity of Chronic Obstructive Pulmonary Disease	American Journal of Roentgenology. 2014 Jul;203(1):78-84.

61	岩崎 肇	麻酔科蘇生科	A temporary decrease in twitch response following reversal of rocuronium-induced neuromuscular block with a small dose of sugammadex in a pediatric patient.	Journal of Anesthesia. 2014 Apr;28(2):288-90.
62	鷹架健一	麻酔科蘇生科	Unilateral Hypoglossal Nerve Palsy after Use of the Laryngeal Mask Airway Supreme.	Case Reports in Anesthesiology. 2014;2014:369563.
63	小川博司	脳神経外科	Rapid and Minimum Invasive Functional Brain Mapping by Realtime Visualization of High Gamma Activity during Awake Craniotomy	World Neurosurg.2014 Nov;82(5):912.e1-10
64	広島 覚	脳神経外科	Functional Localization of the Supplementary Motor Area	Neurologia medico-chirurgica.2014;54(7):511-20.
65	鎌田恭輔	脳神経外科	Rapid and low-invasive functional brain mapping by realtime visualization of high gamma activity for awake craniotomy.	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc. 2014;2014: 6802-5
66	鎌田恭輔	脳神経外科	Novel techniques of real-time blood flow and functional mapping:technical note	Neurologia medico-chirurgica.2014;54(10):775-85.
67	宇津木 千鶴	歯科口腔外科	Hard -diet feeding recovers neurogenesis in the subventricular zone and olfactoryfunctions of mice impaired by soft-diet feeding	PLOS one.2014 May 9;9(5):e97309.
68	宇津木 千鶴	歯科口腔外科学	Impaired mastication reduced newly generated neurons at the accessory olfactory bulb and pheromonal responses in mice	Archives of oral biology.2014 Dec;59(12):1272-8.
69	渡邊 賢二	救急科	Cyst infection of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: Management of a rare complication: Report of 2 Cases	Pancreas. 2014 Apr;43(3):478-81.
70	向野雅彦	リハビリテーション科	Efficacy of brain-computer interface-driven neuromuscular electrical stimulation for chronic paresis after stroke.	Journal of Rehabilitation Medicine.2014 Apr; 46(4): 378-82
71	鈴木 啓子	総合診療部	Screening for major depressive disorder with the Patient Health Questionnaire(PHQ-9 and PHQ-2)in an outpatient clinic staffed by primary care physicians in Japan:a case control study.	PLoS One.2015 Mar 19;10(3):e0119147.
72	奥村 利勝	総合診療部	Antinociceptive action against colonic distension by brain orexin in conscious rats.	Brain Res.2015 Feb 19;1598:12-7.
73	野津 司	地域医療教育学講座	A balance theory of peripheral corticotropin-releasing factor receptor type 1 and type 2 signaling to induce colonic contractions and visceral hyperalgesia in rats.	Endocrinology.2014 Dec;155(12):4655-64.
74	野津 司	地域医療教育学講座	Urocortin 2 blocks the suppression of gastric antral contractions induced by lipopolysaccharide in freely moving conscious rats.	Regulatory Peptides. 2014 May;190-191:12-7.
75	野津 司	地域医療教育学講座	Water-avoidance stress enhances gastric contractions in freely moving conscious rats: Role of peripheral CRF receptors	Journal of Gastroenterology. 2014 May;49(5):799-805

76	浅井 洋子	周産母子センター	Thrombosed dural sinus malformation in a fetus: A case report	Journal of Neuroimaging. 2014 Nov-Dec;24(6):603-6.
77	南 幸範	呼吸器センター	Prostaglandin I2 analog suppresses lung metastasis by recruiting pericytes in tumor angiogenesis	International Journal of Oncology. 2015 Feb;46(2):548-54.
78	北田 正博	乳腺疾患センター	Spindle cell carcinoma of the breast as complex cystic lesion: a case report	Cancer Biology & Medicine.2014 Jun; 11(2): 130-133.
79	北田 正博	乳腺疾患センター	Photodynamic diagnoses of malignant pleural diseases using the autofluorescence imaging system	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014;20(5):378-82.
80	川辺 淳一	心血管再生・先端医療開発講座	Role of the vasa vasorum and vascular resident stem cells in atherosclerosis	BioMed Research International. 2014;2014:8.
81	藤井 聡	臨床検査・輸血部	BURTON ELIAS SOBEL (1937-2013): His Friends Speak.	American Journal of Cardiology 2014; 113(2),402-405
82	藤井 聡	臨床検査・輸血部	Resolution of left atrial thrombus with novel oral anticoagulants.	J Cardiol Cases 2014;10(6),241-242
83	國澤 卓之	手術部	Target-controlled infusion and population pharmacokinetics of landiolol hydrochloride in patients with peripheral arterial disease.	Ther Clin Risk Manag. 2015 Jan 17;11:107-14.
84	國澤 卓之	手術部	The dexmedetomidine concentration required after remifentanyl anesthesia is three-fold higher than that after fentanyl anesthesia or that for general sedation in the ICU.	Ther Clin Risk Manag. 2014 Oct 4;10:797-806.
~				

計 84

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	内海辰哉	第三内科	adefovirの減量と経口リン製剤が有効であった病的尺骨骨折を伴うFanconi症候群の1例	日本内科学会雑誌, 103(8): 1927-1930, 2014.
2	石子 智士	医工連携総研講座	眼科における遠隔医療の意義.	日本遠隔医療学会雑誌. 10(1): 4-7, 2014.
3	木ノ内 玲子	医工連携総研講座	遠隔医療システムの医学教育への活用.	日本遠隔医療学会雑誌. 10(1): 25-28, 2014.
4	花田 一臣	医工連携総研講座	遠隔相談システムを活用した医療支援.	日本遠隔医療学会雑誌. 10(1): 8-11, 2014.
5	林 弘樹	遠隔医療センター	旭川医科大学が取り組む PHR システムを用いた目の健康アドバイスサービス.	日本遠隔医療学会雑誌. 10(1): 36-39, 2014.

6	山口 亨	医工連携総研講座, 遠隔医療センター, 眼科	術後退院患者の遠隔フォローアップシステム.	日本遠隔医療学会雑誌. 10(1): 12-15, 2014.
7	花田 一臣	医工連携総研講座	旭川医科大学が行う眼疾患に対する緊急遠隔医療支援.	日本遠隔医療学会雑誌. 10(2): 145-148, 2014.
8	山口 亨	医工連携総研講座, 遠隔医療センター, 眼科	地方病院における眼科遠隔医療システムの有用性.	日本遠隔医療学会雑誌. 10(2): 149-151, 2014.
9	伊藤 はる奈	眼科	EDI-OCTで脈絡膜肥厚を認めた高血圧脈絡膜症.	眼科. 56(13): 1565-1570, 2014.
10	石羽澤 明弘	眼科, 名寄市立総合病院眼科	腎移植または血液透析導入を契機に糖尿病黄斑浮腫が改善した5症例.	あたらしい眼科. 32(2): 279-285, 2015.
11	間瀬 智子	眼科	網膜出血と軟性白斑を認めた silent 巨細胞性動脈炎.	臨床眼科. 69(3): 379-383, 2015.
12	大原賢三	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	繰り返す体幹失調と異常眼球運動を呈した Opsoclonus-myoclonus syndrome例	耳鼻咽喉科臨床. 107(8): 603-608, 2014.
13	石田芳也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	毛包炎により発症した頸部Mondor病例	耳鼻咽喉科臨床. 107(4): 323-325, 2014.
14	高原 幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	重症急性咽頭・扁桃炎におけるレボフロキサシン(500mg)1日1回投与の有用性	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌. 2(2): 90-93, 2014.
15	坂東伸幸	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	頸動脈超音波検査における甲状腺および頸部リンパ節スクリーニングの有用性	日本耳鼻咽喉科学会会報. 17(7): 914-921, 2014.
16	林 達哉	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	小児由来 β -ラクタマーゼ産生 Haemophilus influenzae の急速な増加と選択抗菌薬に与える影響	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌. 2(2): 83-86, 2014.
17	石戸谷俊太	放射線科	唾液腺シンチグラフィへの Patlak Plot 法の応用: 唾液腺機能定量評価の確立に関する検討	北海道医学雑誌, 89(1): 29-36, 2014.
18	佐藤慎	麻酔科蘇生科	開胸時に初めて発生し、再開胸操作により自然解除された closed stuck valve の一例	Cardiovascular Anesthesia. 18(1): 51-54, 2014.
19	鈴木昭広	麻酔科蘇生科	気道管理における超音波の新しい役割	麻酔. 63(6): 700-705, 2014.
20	佐藤慎	麻酔科蘇生科	低侵襲連続的心拍出量モニタシステム「LiDCOrapid」	循環制御. 35(2): 166-176, 2014.
21	鎌田恭輔	脳神経外科、東京大学脳神経外科	脳腫瘍手術における術前・術中脳機能マッピング・モニタリング	脳神経ジャーナル. 23(4): 296-305, 2014.
22	石橋秀昭	脳神経外科	突発性・急性進行性の難聴をきたした小脳橋角部くも膜嚢胞	脳神経外科速報. 24(10): 1128-1133, 2014.
23	田村有希恵	脳神経外科	頭蓋外進展を来した神経膠腫の1例	脳神経外科速報. 24(12): 1353-1358, 2014.
24	鎌田恭輔	脳神経外科	リアルタイム高周波脳律動解析による脳機能マッピング	脳神経外科ジャーナル. 23(11): 862-870, 2014.
25	和田 始	脳神経外科	Flow assessment application "Flow-Insight" の脳血管撮影への臨床応用	脳卒中の外科. 42(5): 353-358, 2014.

26	佐藤正夫	脳神経外科	脳出血の画像診断	日本臨床,72巻増刊号(7): 03-307, 2014.
27	近藤英司	歯科口腔外科	放射線照射後の骨欠損に移植をおこなった骨髄由来間葉系幹細胞の機能	北海道医誌. 90(1): 39-47,2015.
28	近藤英司	歯科口腔外科	術後補助化学療法に使用したS-1が原因と思われる薬剤性間質性肺炎の1例	日本口腔外科学会誌. 60(6): 342-347, 2014.
29	荒井五織	歯科口腔外科	旭川医科大学病院歯科口腔外科における時間外救急受診患者の受診経口に関する検討	有病者歯科医療. 23(4): 270-275, 2014.
30	丹保亜希仁	救急科	産科大出血に対する大量輸血後の肺うっ血を契機に診断された僧帽弁逸脱症の1例	日本集中治療医学会雑誌. 22(2): 145-146, 2015.
31	平井理子	呼吸器センター	クリゾチニブによる薬剤性食道炎を来したEML4/ALK融合遺伝子陽性肺腺癌の1例	肺癌, 54(2): 68-72, 2014.
32	阿部 泰之	緩和ケア診療部	ケア・カフェ®が地域連携に与える影響—混合研究法を用いて—	Palliative Care Research. 10(1): 134-40, 2014.
33	北田 正博	乳腺疾患センター	家族性乳癌と若年性乳癌	北海道外科雑誌. 59(2): 123-128, 2014.
34	北田 正博	乳腺疾患センター	【肺に対する外科治療】悪性胸膜中皮腫の診断と治療	北海道外科雑誌,59(1): 2-8, 2014.
35	藤井 聡	臨床検査・輸血部	IV. 臓器障害・合併症の検査 特殊検査 バイオマーカー miRNA(マイクロRNA、microRNA)	別冊 日本臨床 2014. 72: 218-221, 2014
36	伊藤敦巳 他	臨床検査・輸血部	ラテックス凝集反応による4種のTP抗体測定試薬の基本性能の評価と判定不一致検体の精査	臨床病理. 63: 25-31,2015
37	新関紀康 他	臨床検査・輸血部	ラテックスシスタチンCキット「ヤマサ」の基礎的検討	医学と薬学. 72: 499-504, 2015.
38	東 由桂 他	臨床検査・輸血部	血液培養から分離されたAcinetobacter 属菌の同定に関する検討	日本臨床微生物学雑誌. 25(3): 213-222, 2015.
39	新関紀康 他	臨床検査・輸血部、北海道大学大学院保健科学院	LAP測定試薬との異常反応を呈した原発性マクログロブリン血症の解析例	生物物理化学. 58(2): 93-97, 2014.
40	河端奈穂子 他	臨床検査・輸血部	【透析患者における冠動脈疾患と心臓弁膜症の診断と治療】透析患者における冠動脈疾患と心臓弁膜症の成因および臨床像	臨床透析. 30(8): 935-958, 2014.
41	赤坂和美	臨床検査・輸血部	人工弁置換術後慢性期に労作時息切れをきたした1例	心エコー. 15(11): 1100-1104, 2014.
42	赤坂和美 他	臨床検査・輸血部	【最新臨床高血圧学—高血圧治療の最前線—】臓器障害・合併症評価の検査 特殊検査 超音波検査・MRI・CT	別冊 日本臨床. 72: 149-152, 2014.
43	赤坂和美	臨床検査・輸血部	【エキスパートへの道<1>ピットフォール！ピットフォール！ピットフォール！】僧帽弁逆流	心エコー. 16(3): 245-251, 2015.
44	平田 哲	手術部	特集 周術期感染症の制御と治療戦略 手術時手指衛生	化学療法の領域. 31(2): 250-255, 2015.
45	南谷克明	手術部	白色LEDを用いた光線力学抗菌化学療法の抗菌効果の評価	光アライアンス. 26(3): 1-4, 2015.
46	平田 哲	手術部	手術部マネジメントで大切なものって何？	日本手術医学会誌. 36(1): 1-4, 2015.

47	平田 哲	手術部	第36回日本手術医学会総会を終えて	旭川医科大学研究 フォーラム. 15(1): 119 - 120, 2015.
48	大滝康一	薬剤部・北海道薬科大学	薬学的介入記録票解析による病棟薬剤師 業務の効果検証.	医療薬学. 40(8): 463-470, 2014.
49	岩山 訓典	薬剤部	マクロライド系抗菌薬の処方実態に基づく 慢性炎症性疾患に対する少量長期投与療 法の有効性に関する再検証 常用量投与 との比較.	薬局薬学. 6 (2): 157-166, 2014.
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究の実施に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 10 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 3 2 回 (持ち回り審議)

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 6 回
・ 研修の主な内容 各種指針（臨床研究に関する倫理指針、疫学研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針）に関する講習、利益相反に関する講習、生命科学・医科学研究の倫理的・社会的課題と国際連携に関する講習。	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心血管カテーテル治療、先進的肺癌治療、心血管再生療法、不整脈治療、腎炎ネフローゼの集学的治療、糖尿病腎症の寛解を目指した集約的治療、膵癌・肝癌の集学的治療、膠原病・内分泌疾患における集学的診断治療法、炎症性腸疾患の新規治療：新しい絶体療法を含むLBDの治療、特殊光内視鏡や小腸内視鏡を駆使した診断治療、消化管腫瘍の内視鏡治療：EMR・ESDによる早期性治療、カプセル内視鏡・小腸内視鏡を用いた小腸疾患治療：小腸癌・リンパ腫をはじめ小腸疾患の最新の診断治療、消化管疾患を有する悪性リンパ腫に対する最新の診断治療、輸血後鉄過剰症に対する最新のマネジメント：新規鉄キレート療法を含む、小児救急医療、新生児医療、最先端の弓部大動脈瘤手術、高難度バイパス手術による救肢治療、整容性を考慮した乳房温存手術、最先端の弓部大動脈瘤手術、腹腔鏡補助下消化管癌手術、炎症性腸疾患外科治療、肝胆膵領域高難度手術、人工股関節置換術、悪性黒色腫のセンチネルリンパ節生検、上部尿路結石に対する内視鏡的手術、難治性下部尿路機能障害の診断と治療、極小切開白内障手術、難治緑内障に対する手術療法、角膜パーツ移植術、糖尿病網膜症の硝子体手術、超選択的動注化学療法、人工内耳埋め込み術とその管理、音声再建外科、内視鏡手術、胎児超音波診断、高度生殖医療、CT・MRI・US・血管造影・核医学・PET-CTによる総合画像診断、IVR、放射線治療、RI内用療法、マンモグラフィ読影、3Dエコー診断による手術中の心機能評価、高感度超音波診断装置を利用した選択的末梢神経ブロック、薬物シミュレーションを用いた効果部位濃度測定による薬物管理、硬膜外内視鏡を用いた腰下肢痛治療、ニューロナビゲーター支援下脳神経手術、神経内視鏡支援下脳神経手術、難治性てんかんに対する焦点部切除手術、3次救急初療、人工呼吸管理、経食道心エコー、ドクターヘリ講習、気道管理における超音波の利用、超音波ガイド下中心静脈穿刺、超音波による胃内容の評価、周産期救急・敗血症性DICの管理 等

2 研修の実績

研修医の人数	60.25 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大崎 能伸	呼吸器内科	教授	35 年	
長谷部 直幸	循環器内科 腎臓内科 神経内科	教授	35 年	
羽田 勝計	膠原病・内分泌内科 消化器内科 糖尿病科	教授	39 年	
高後 裕	消化器内科 血液腫瘍内科	教授	41 年	
千葉 茂	精神科神経科	教授	36 年	
東 寛	小児科	教授	36 年	
東 信良	血管外科	教授	30 年	
北田 正博	呼吸器乳腺外科	准教授	28 年	

紙谷 寛之	心臓大血管外科	教授	18	年
古川 博之	消化器外科・移植外科	教授	35	年
伊藤 浩	整形外科	教授	27	年
山本 明美	皮膚科	教授	32	年
柿崎 秀宏	泌尿器科	教授	30	年
長岡 泰司	眼科	准教授	22	年
原淵 保明	耳鼻咽喉科	教授	33	年
千石 一雄	産科婦人科 周産母子科	教授	36	年
高橋 康二	放射線科	教授	33	年
岩崎 寛	麻酔科蘇生科	教授	40	年
鎌田 恭輔	脳神経外科	教授	27	年
松田 光悦	歯科口腔外科	教授	35	年
奥村 利勝	総合診療部	教授	31	年
藤田 智	救急科	教授	34	年
大田 哲生	リハビリテーション科	教授	26	年
阿部 泰之	緩和ケア診療部	病院講師	26	年
三代川 斉之	病理部	教授	34	年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
次頁以降参照
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
次頁以降参照
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

①医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

1	研修の主な内容	<u>初任者研修</u> 看護部運営と方針、継続教育、看護倫理、接遇、医療安全、他部門紹介等の講義を受け、病院組織における役割・心構えを理解し、適切な行動について認識する。
	研修の期間と実施回数	平成26年4月2～4日、7～11日（7日間/人）1回
	研修の参加人数	70人
2	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅰ・基礎Ⅱ）</u> 安全を確保し、的確な看護判断と末梢点滴静脈注射、酸素療法、経口・直腸与薬、筋肉注射等の看護技術を実践する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成26年4月14日～18日（3日/人）1回
	研修の参加人数	60人
3	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅲ）</u> 所属部署で実施する看護技術を患者・家族に説明でき、安全に適切に提供する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成26年5月～7月（2日間/人）1回
	研修の参加人数	60人
4	研修の主な内容	<u>新卒者静脈注射Ⅰ・Ⅱ</u> 静脈注射に関連する法的解釈・薬物の薬理作用と与薬上の注意点、基礎看護技術を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成26年5月29日・30日（0.5日/人）1回
	研修の参加人数	60人
5	研修の主な内容	<u>新卒者メンバーシップ研修</u> チーム医療におけるコミュニケーションと倫理的態度について理解

		を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 6 月 12 日・6 月 13 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	57 人
6	研修の主な内容	<u>新卒者看護過程</u> 患者のニーズに沿った看護計画協働立案の理解を深め、実践能力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 7 月 15 日・17 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	60 人
7	研修の主な内容	<u>新卒者シミュレーション研修</u> 多重課題・時間切迫の状況下における傾向を自ら気づき安全なケアの実践力を高めるために場面設定による演習、グループワークを行う。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 11 月 19 日・20 日・21 日 (100 分/人) 1 回
	研修の参加人数	55 人
8	研修の主な内容	<u>新卒者私の看護</u> 事例検討を通して、看護の視点を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 1 月 22 日・23 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	53 人
9	研修の主な内容	<u>新卒者静脈注射Ⅲ</u> 静脈注射を安全に実施するための知識を備え、実践能力を身につける。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 2 月 13 日・14 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	65 人
10	研修の主な内容	<u>新任者静脈注射Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</u> 静脈注射に関連する法的解釈・薬物の薬理作用と与薬上の注意点、

		技術を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 4 月 22 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	10 人
11	研修の主な内容	<u>卒後 2 年目事例検討</u> 実践事例を通して、根拠に基づいたケアを分析し、自己の課題を明らかにする。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 9 月 18 日・19 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	64 人
12	研修の主な内容	<u>卒後 3 年目看護研究</u> 看護実践における疑問や問題の解決をめざすための研究的視点を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 5 月～11 月 (4 日間/人) 1 回
	研修の参加人数	61 人
13	研修の主な内容	<u>教育担当者研修 I</u> 新人を取り巻く社会状況を再認識し、組織として新人看護職員教育支援体制を強化する。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 6 月 6 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	20 人
14	研修の主な内容	<u>教育担当者研修 II</u> リフレクションを用いて、新人看護師教育に関わるスタッフを支援する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 7 月 18 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	45 人

15	研修の主な内容	<u>教育担当者研修Ⅲ</u> 新人看護職員研修における看護倫理教育について学ぶ。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 3 月 6 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	40 人
16	研修の主な内容	<u>プリセプターシップⅡ</u> 新人看護師が職場に適応できるように支援する力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 6 月 26 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	44 人
17	研修の主な内容	<u>プリセプターシップⅠ</u> プリセプターシップについて学び新人看護職員の支援について理解を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 2 月 27 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	54 人
18	研修の主な内容	<u>リーダーシップ研修Ⅰ</u> リーダーに求められる機能と役割を学び、実践に結び付ける能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 7 月 18 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	36 人
19	研修の主な内容	<u>リーダーシップ研修Ⅱ</u> 組織を理解し自立を支援するリーダーシップについて学ぶ。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 9 月 25 日・26 日 (2 日/人) 1 回
	研修の参加人数	25 人
20	研修の主な内容	<u>看護学実習指導者研修</u> 講義とグループワークを通して看護学生の看護実践を指導する能力

		を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 2 月 20 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	33 人
21	研修の主な内容	<u>副看護師長研修</u> 看護管理者としての役割を認識し、組織の目的達成のために必要な行動をとる能力を養う。
	研修の期間と実施回数	1 回目：平成 26 年 8 月 9 日 2 回目：平成 26 年 11 月 27 日・28 日 (1.5 日/人) 2 回
	研修の参加人数	延べ 100 人
22	研修の主な内容	<u>看護師長研修</u> 自己の看護管理経験を振り返り、概念化能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 2 月 6 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	31 人
23	研修の主な内容	<u>院内体験研修</u> 部署で未経験・実施できない基礎看護技術を体験し、他部署とのつながりや看護の継続について振り返る。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 7 月～平成 27 年 2 月 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	63 人
24	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー初級</u> 看護診断の意味・意義・活用を理解する。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 8 月 23 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	104 人
25	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー中級</u>

		アセスメントと看護診断プロセスを理解する。看護診断に必要な知識を身につける。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 9 月 20 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	84 人
26	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー上級</u> 事例検討を通し、アセスメントから看護診断する過程を理解し、看護診断指導のポイントを理解する。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 11 月 8 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	64 人
27	研修の主な内容	<u>理論と実践</u> 実践の場での体験と理論を結びつけ、統合する力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 11 月 24 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	27 人
28	研修の主な内容	<u>看護研究</u> 看護実践の質向上に向けた研究力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 8 月 8 日、10 月 24 日、平成 27 年 1 月 16 日 (2 時間/人) 3 回
	研修の参加人数	10 人
29	研修の主な内容	<u>新卒者看護 OSCE 客観的臨床技能試験</u> 口鼻腔吸引の演習を実施し、自己の看護技術の向上を目指し、主体的な学習姿勢を培う。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 10 月 29 日・30 日・31 日 (30 分/人) 1 回
	研修の参加人数	54 人
30	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレス I</u>

		講義とグループワークを通し、がんとともに生きる人々とその家族の体験や特徴を理解し、患者と家族の意向を尊重した看護実践を展開するための基盤となる考え方や知識を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 7 月 31 日～11 月 14 日 (70 分/人) 3 回
	研修の参加人数	述べ 199 人
31	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレスⅡ</u> がん化学療法に伴う代表的な副作用症状について理解し、適切な対処方法とセルフケア支援のための知識を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 1 月 14 日～2 月 26 日 (90 分/人) 2 回
	研修の参加人数	述べ 100 人
32	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレスⅢ</u> 講義とグループワーク、事例検討会を通し、がん化学療法看護の専門的知識をもとに包括的アセスメントを行い、看護経験に基づくケースを分析し、個別的・全人的な看護を展開する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 7 月 3 日～平成 26 年 12 月 12 日 (90～180 分/人) 3 回
	研修の参加人数	述べ 84 人
33	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレスⅣ</u> がん化学療法看護におけるベットサイドケアについて検討し、質の高い看護実践を推進するための能力を育成する。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 10 月 10 日～平成 27 年 2 月 10 日
	研修の参加人数	延べ 22 人
34	研修の主な内容	<u>口腔ケアと摂食嚥下障害看護に関する研修</u> 講義と演習を通し、口腔ケアと摂食・嚥下障害看護に関する看護実

		践に役立つ知識・技術を学ぶ。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 10 月 25 日 (2.5 時間/人) 1 回
	研修の参加人数	31 人
35	研修の主な内容	<u>在宅療養支援</u> ～地域と連携し、在宅療養を推進する～在宅療養支援における知識を学び実践能力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 9 月 26 日 (金) (75 分/人) 1 回
	研修の参加人数	77 人
36	研修の主な内容	<u>平成 26 年度「新卒者・新任看護師に対する静脈注射研修」</u>
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 4 月 22 日、5 月 29 日、5 月 30 日 計 3 回
	研修の参加人数	70 人
37	研修の主な内容	<u>平成 26 年度「看護師と助産師のための復職支援研修」</u> 注射剤に関する基礎知識について
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 3 月 9 日
	研修の参加人数	8 人

②業務の管理に関する研修の実施状況 (任意)

1	研修の主な内容	<u>看護必要度研修</u> 本研修は、看護必要度の評価者として必要な知識・能力を養うことを目的としている
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 5 月 8 日、5 月 15 日 (120 分/人) 2 回
	研修の参加人数	74 名
2	研修の主な内容	<u>第 1 回看護助手研修</u> 本研修は、看護助手が看護助手業務における接遇について理解する、看護助手に必要な技術を身に付けることを目的としている。

	研修の期間と実施回数	平成 26 年 7 月 8 日～11 日 7 月 18 日 (120 分/人) 5 回
	研修の参加人数	56 名
3	研修の主な内容	<u>第 2 回看護助手研修</u> 本研修は、看護助手が組織の一員としての役割を理解する、看護助手業務における安全対策、感染対策について理解することを目的としている。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 11 月 26～27 日、12 月 9～10 日 (120 分/人) 4 回
	研修の参加人数	59 名
4	研修の主な内容	<u>第 1 回臨床倫理に関する学習会</u> 本研修は倫理的問題とは何かを考え、倫理的思考について学ぶことを目的としている。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 10 月 7 日 (60 分/人) 1 回
	研修の参加人数	103 名
5	研修の主な内容	<u>第 2 回 臨床倫理に関する学習会</u> 本研修は、臨床倫理の事例分析によって倫理的思考の理解を深めることを目的としている。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 11 月 6 日 (75 分/人) 1 回
	研修の参加人数	41 名
6	研修の主な内容	<u>看護記録学習会</u> 本研修は、実践した看護が見える記録を推進することを目的としている。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 3 月 6 日 (45 分/人) 1 回
	研修の参加人数	81 名

7	研修の主な内容	<u>使いこなそうアセスメントデータベース</u> 本研修は看護アセスメントを支援する電子カルテ機能を周知することを目的としている
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 11 月 28 日 (45 分/人) 1 回
	研修の参加人数	127 名
8	研修の主な内容	<u>接遇研修</u> 職員のコミュニケーション能力の向上、職員の意識改革及び資質向上を図る
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 11 月 10 日
	研修の参加人数	267 名
9	研修の主な内容	<u>個人情報保護に関する講演会</u> 個人情報の取扱い及び保護に対する理解を深めるとともに意識の高揚を図る
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 3 月 5 日
	研修の参加人数	191 名

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 平田 哲
管理担当者氏名	総務課長 三浦 哲也、会計課長 綿矢 憲之、経営企画課長 成田 昭夫、 医療支援課長 沼館 敏光、薬剤部長 田崎 嘉一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		病院事務部 経営企画課 医療支援課 薬剤部	コンピューターによる集中 管理を行っている。 カルテ等病歴資料、外来・ 入院別に1患者1ファイル 方式とし、エックス線写真 は分冊になっているが1患 者単位での管理を行っている。	
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	総務部総務課	また、旭川医科大学病院診 療情報管理規定の「利用資 格者の遵守事項」において 、学外への持ち出しを禁止 しているため、病院外へ持 ち出すことは出来ないこと となっている。	
	高度の医療の提供の実績	病院事務部経営企画課		
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	総務部総務課		
	高度の医療の研修の実績	総務部総務課 病院事務部経営企画課		
	閲覧実績	病院事務部経営企画課		
	紹介患者に対する医療提供 の実績	病院事務部経営企画課		
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	病院事務部経営企画課		
	第規 一則 号第 一 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 び 第九 条の 二十 第一 項	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況		医療安全管理部
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理部		
	専任の医療に係る安全 管理を行う者の配置 状況	総務部総務課		
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	総務部総務課		
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	総務部総務課		
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	病院事務部医療支援課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号及び第九條の二十三	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務部総務課
	第一項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務部会計課
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 千葉 正勝		
閲覧担当者氏名	経営企画課長 成田 昭夫		
閲覧の求めに応じる場所	会議室（共通棟（B））		
閲覧の手続の概要			
①経営企画課病院庶務係で閲覧申込（申込者、閲覧理由等を記入）を受ける。			
②病院事務部長の承認を受ける。			
③指定した日時に会議室で閲覧（担当係員立会）。			
④閲覧終了後、担当係員に返却し、担当係員は閲覧事項等を報告する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・ 指針の主な内容： (1) 安全管理の基本理念 (2) 安全管理組織体制の整備 (3) 部門の長の管理責任の明確化 (4) 診療マニュアルの活用(本編・携帯ポケットマニュアル) (5) インシデントと医療事故の用語の定義 (6) インシデント報告体制 (7) 医療事故発生時の対応 (8) 医療関連死・CPA-OA症例の剖検に関する指針 (9) 医療相談窓口の設置 (10) 本指針改正の定義	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： (1) 医療事故防止対策の検討及び推進 (2) 医療事故防止の啓発活動(講演会等の企画立案を含む) (3) インシデント報告の調査及び分析を行い、その改善策を講じ、改善事項・周知事項の周知徹底を図る (4) 医療事故防止対策マニュアルの見直し (5) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年25回
・ 研修の主な内容： 初任者研修(新規採用研修医・看護師)、新規採用医師・中途採用者の教育(看護師、事務職員、コ・メディカル)、ME機器セミナー(輸液ポンプ・シリンジポンプ・カンガルーポンプ：全2回)、インスリン療法研修会、外部講師による講演会、各部門における安全の取り組み報告会&ポスターセッション(2日間：内容別)、事例検討会、eラーニングで学ぶ医療安全など	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 「診療マニュアル第6版」「医療安全ポケットマニュアル(第8刷)」を発行した。 (2) 同じホルマリン瓶に左右の乳房の組織を入れた事例を受け、改善策として、手順を見直し採取後の検体入れを明確にした。 (3) CHD除水量の設定間違い事例を受け、改善策として、指示を確認しながら透析時の設定や患者状態の観察をできるようにCBPチェックリストの様式を変更した。 (4) 術中検体を一時紛失し清掃の際に廃棄されそうになった事例を受け、改善策として、黒ビニールから茶色の袋(氏名記載表示あり)に変更した。 (5) MRI検査中のプリモビスト投与直後の心停止事例を受け、改善策として、MRIオーダー画面の慎重実施項目に「心不全」欄を追加し、また、MRI記録内に「脈波計装着」を記録することとした。 (6) 洗髪中、人工鼻フィルターが濡れたことによる酸素飽和度の低下事例を受け、改善策として、気管切開チューブ挿入の洗髪介助の手順を作成した。 (7) 髄腔内のキシロカイン誤投与事例を受け、改善策として、実施時は、医師2名、看護師1名の3名体制で行うこととなった。ただし、医師2名が確保できない場合は看護師2名を配置する。 (8) 病院機能評価の訪問審査を受審した際、10%塩化ナトリウム注射液 20mLをハイリスク薬に追加することを検討してはどうかとの助言を受け、院内で検討した結果、ハイリスク薬に追加することと決定した。 (9) モルヒネ塩酸塩の点滴静注の指示だったが点滴オーダーが静注の指示であったため静注で投与した事例を受け、改善策として、医師・看護師と協働し指示だし・指示受け(頓用時も含め)の手順見直しを行った。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (3名) <input type="checkbox"/> 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (6名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（5）名 兼任（6）名 ・ 活動の主な内容： （1）医療の質の向上及び安全に関する事項 （2）インシデントレポート等に関する調査・分析 （3）医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知 （4）医療調査委員会開催の要否 （5）院内各部署における医療安全管理状況の点検 （6）医療の安全性に係る教育および研修 （7）医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知 （8）医療事故防止対策マニュアルの見直し （9）医療安全に関する院外への情報提供 （10）その他医療安全に関する事項 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染対策に関する基本的な考え方・感染制御部・ICTなどの組織的な取組み院内感染対策のための職員研修に対する基本指針感染症発生状況の報告に関する基本方針院内感染発生時の対応に関する基本方針患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針その他の当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染の予防に関すること院内感染の情報収集に関すること感染源の追及等のための検査実施に関すること防疫対策の確立に関することHIV感染症の医療体制に関することその他、院内感染対策についての重要事項に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年15回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">初任者研修における講義（新採用者、初期研修医）手指衛生・PPE着脱演習（新採用者、中途採用者、各部署の教育担当者、全病院職員）院内感染対策に係る講演会針刺し・切創事故報告ノロウイルス感染対策 嘔吐物処理方法に関する演習eラーニング	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">（有・無）微生物検査室と連携し微生物の新規検出状況を毎日把握しており、当該検出部署の感染対策マネージャーに連絡を行い感染予防策の実施について確認している。また、アウトブレイクが疑われる場合は菌種の遺伝子検査を実施し、同一菌種による発症事例が多数の場合は病院長に報告するとともに、保健所に報告する体制が構築されている。感染制御部における「適正な手指衛生・個人防護具の着脱演習」について、新規採用職員、中途採用職員なども含め、病院職員全体に実施している。また、教育対象を外注職員、ボランティアに拡大するなど院内の感染対策に努めている。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などのICTメンバーによる感染制御チームを設置している。1ヶ月に4回以上定期の院内ラウンドを実施し、各種の予防策の実施状況やその効果等の評価を行っている。感染制御チームのラウンドのほかに、感染対策リンクナースとともに各部署の「感染対策オーデイット」を行い、感染対策実施状況のチェックと指導を行っている。平成24年4月より、本院を含めた旭川市内5医療機関での連携が開始された。平成25年4月からは1医療機関脱退し、4医療機関で合同カンファレンスや平成26年9月から職種別（看護職）カンファレンスを実施し、相談体制など構築している。平成24年度より、加算1算定医療機関同士の相互チェックを実施している。講演会開催時、連携施設にも連絡し、連携施設の研修参加数が増えている。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 初任者研修 (対象：全職員：看護師：研修医) H26. 4. 3, 4 新規採用者全員</p> <p>(2) 新規採用医師並びに看護師の中途採用者の教育 H26. 4. 23～適時 継続中</p> <p>(3) 医療安全に関する講演会 H26. 11. 17 計161名</p> <p>(4) その他の研修会</p> <p>① インスリン療法の注意点は何か? H. 26. 7. 4 240名</p> <p>② 第1回事例検討会 (事例から学ぶ) H26. 8. 1 62名</p> <p>③ 安全管理・感染制御部合同研修 (安全の基本の基本等) H26. 8. 29 計304名</p> <p>④ 各部門での安全の取り組み (実践と報告会) H26. 12. 3-4 計761名</p> <p>⑤ 安全管理部・感染制御部合同研修 (新薬と後発医薬品を理解するために) H26. 2. 13 計129名</p> <p>⑥ 第2回事例検討会 (事例から学ぶ) H26. 2. 4 計69名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>(1) 総則 (2) 医薬品の採用 (3) 医薬品の購入・管理 (4) 薬剤部における医薬品の管理</p> <p>(5) 病棟・各部門への医薬品の供給 (6) 外来患者への医薬品使用</p> <p>(7) 入院患者への医薬品使用 (8) 麻薬管理 (9) 院内製剤 (10) 他施設との連携</p> <p>(11) 医療事故防止および発生時の対応 (12) 教育・研修</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 厚生労働省医薬食品局：医薬品・医療機器安全情報</p> <p>(2) 日本製薬団体連合会：Drug Safety Update</p> <p>(3) 各メーカー・卸からの回収情報等の収集</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	② <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>定期研修 ME 機器セミナー（経腸栄養ポンプ、シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、除細動器） 医療機器の安全使用者養成講座（シリンジポンプ、輸液ポンプ） 人工心肺操作時のトラブル対応シミュレーション 人工呼吸療法に関するセミナー、高気圧酸素治療装置のトラブルシミュレーション 血液浄化療法に関するセミナー 保育器のメーカーによる説明及び研修</p> <p>新しい医療機器の導入時の研修 X線CT装置</p> <p>点検後の研修 放射線発生装置における定期点検後の装置状態説明 ¹⁹⁷Ir線源交換・払出、線源校正 診療用放射線照射装置における定期点検後の装置状態説明</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) シリンジポンプ、輸液ポンプ及び経腸栄養ポンプは中央管理による日常点検及び定期点検(2) 人工呼吸器の始業点検、使用中点検、終業点検及びメーカーによる定期点検(3) 血液浄化装置の始業点検及びメーカーによる定期点検(4) 除細動器は点検器具を用いた臨床工学技士による定期点検(5) 人工心肺装置及び補助循環装置は始業点検及びメーカーによる定期点検(6) 保育器の日常点検、定期的な点検(7) 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、X線撮影装置、MRI装置、核医学撮影装置の始業・終業点検及び定期点検、装置の品質維持管理(8) 業者による定期保守点検<ol style="list-style-type: none">① 診療用高エネルギー放射線発生装置② 診療用放射線照射装置③ 造影剤注入装置(9) 業者に対する機器故障時のオンコール	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 情報収集の方法	

- ①医療機器に関する情報提供のホームページを活用
- ②医薬品医療機器情報配信サービス(PMDAメディナビ)の登録
- ③メーカー主催のメンテナンス講習会への参加
- ④療機器に関連する学会への参加
- ⑤メーカー担当者からの報告及び情報の収集
- ⑥放射線医療機器に関する情報提供のホームページを活用
- ⑦放射線医療機器に関連する学会への参加

(2) 情報の周知

- ① ME 機器セミナーによる報告
- ② 文書配付による通知
- ③ メーカー担当者から関連部署への通知の依頼
- ④ 研修時の定期報告と確認
- ⑤ 記録簿等の報告と確認

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 2015年6月5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 院内掲示及びホームページ等により、特定機能病院であることの情報発信している。 また、先進医療を新たに行う等の各種情報を、地域医師会等へ随時提供している。 ○ (発信方法) 大学概要、病院ホームページ、入院のしおり、外来診療のご案内、院内掲示にて発信 ○ (概要) 基本理念、目標、医療体制、評価指標、先進医療	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○ チーム医療を推進し、複数の診療科や中央診療施設等が連携し、全人的医療の提供を実施 ○ 患者の病状に応じ充実した医療を提供できるよう、複数診療科における症例検討会の実施 (手術、化学療法、放射線治療等) ○ 救急科、総合診療部を受診した複数診療科領域の患者に対し、専門領域の臓器別診療科と連携 ○ 医療安全等に関し、医療の質の向上等のため、組織横断的に担う実働的な組織として医療安全管理部及び各種委員会を設置し、専任リスクマネージャーの配置等、病院全体で連携を図っている。 ○ 院内感染対策に関し、感染制御部及び各種委員会を設置	